ネットトピックス　R01。12。26 版

國學院大学・高校生新聞社主催　第１５回「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」

今年は　佳作２点、入選２点入賞しました。入賞は５年連続です

★受賞一覧

【地域文化研究　団体部門】　佳作

歴史研究部ループ　横井純・三津原やまと・橋本隆良・瀧波愛翔（3 年生）

「幻の甚目寺飛行場　～戦後 74 年目　証言を聴く」

【地域文化研究　個人部門】　佳作

熊沢 咲良　（３年生）

「地域行事の継承とこれから　～屯倉村囃子から創る未来」

【地域文化研究　団体部門】　入選

チーム観音　木村心優・塩田茉子・遠山美樹・山下歩華

小出来捺・熊沢咲良（3 年生）

「矢合観音と水　現在に続く民間信仰～植木職人はインフルエンサーか～」

【地域文化研究　個人部門】　入選

木村心優（3 年生）

「木遣り音頭　研究序説」

國學院大学は柳田国男・折口信夫らが教鞭をとった民俗学研究の中心的な大学。高校生に民俗学、伝承文化を学ぶきっかけ作りとして國學院大学が毎年行っているこのコンテスト。今年も全国から 700 を超える論文が集まっている。本校は５年連続で入賞を果たすことができた。

★研究内容

歴史研究グループ　「幻の甚目寺飛行場　～戦後 74 年目　証言を聴く」

現在のあま市・稲沢市・清須市にまたがる土地に昭和 19 年から終戦まで 10 か月だけ存在した甚目寺（清州）飛行場のついて調べたもの。本・新聞などの文献調査、さらに自転車で飛行場の周囲を回り大きさを実感するとともに、現存する作戦指令室跡を訪れた。当時学徒動員で建設にかかわった昭和中学の方から聞き取りを行い貴重な証言集として記録に残すことができた。

熊沢　咲良　　「地域行事の継承とこれから　～屯倉村祭囃子から創る未来」

稲沢市平和町三宅地区で５年前まで行われていた。屯倉村祭囃子（みやけむらまつりばやし）について調べたもの。本人が小学生時代に参加していた地域の伝統行事について、その歴史や意味を文献や聞き取りから明らかにしたもの。地域行事衰退の原因を探るとともに地域行事を継承する意味について考えた論文。

チーム観音「矢合観音と水　現在に続く民間信仰～植木職人はインフルエンサーか～」

万病に効く水と観音菩薩。寺のようで寺ではなく民間の宗教施設でありながらも多くの信者を集める稲沢市の矢合観音について研究したもの。文献からその由来を調べるとともに、縁日に訪れた人々や当主に聞き取りを行いその実態に迫った研究。人々はなぜここに集まるのか？どうやって信仰は広がっていったのか？信仰とは何か？多くのことを考えることができた。

木村心優（3 年生）　「木遣り音頭　研究序説」

加藤清正が名古屋城築城の際に唄った木遣り音頭にその由来があり、自ら小学校４年生の時授業の一環として取り組んだもの。木遣り音頭の歴史を調べるとともに、一宮など他地区の同行事との比較や、自らが行っていた頃と現在の様子の比較も行った。遣り音頭の指導者などから聞き取りなどをおこない研究を進めた。

令和元年１２月２４日毎日新聞愛知版で掲載

掲載については毎日新聞の許諾済み

地域伝承文化コンテスト

杏和高5年連続入賞

県立杏和高（稲沢市祖父江町）の3年生が「第15回地域の伝承文化に学ぶコンテスト」（国学院大など主催）で入賞した。同校の入賞は5年連続。地域文化研究団体部門の佳作に輝いたチーム「歴史研究」は、あま市などにあった甚目寺（清洲）飛行場を研究。太平洋戦争末期の本土防衛のため1944年10月に完成し、終戦まで10カ月使われたといい、「研究が戦争の悲惨さを後世に伝える一助になれば」と話している。

コンテストは高校生自らが地域の歴史や民話、方言などを調べて論文にまとめるもので、同校から佳作、入選各2点が選ばれた。

この飛行場を調査した滝波愛翔さん、橋本隆良さん、横井純さん、三津原やまとさんの4人は「ほとんど知られておらず、飛行場に関わった方が存命のうちに話を聞きたかった」と話す。パソコンや書籍で調べたほか、航空地図で過去と現在を比較。飛行場に学徒動員されていた昭和中学（現昭和高校）の元生徒4人との座談会も実現させ、敵機から機銃掃射を間近に受けた話や防空壕を造った話などを聞いた。飛行場司令室跡も一緒に訪問し、生徒らは「戦争遺跡として後世に残していきたい」と話した。

個人部門でも熊沢咲良さん(18)が佳作を受賞。稲沢市平和町三宅地区に伝わり、2014年を最後に中止された「屯倉村祭囃子」を調査。中止の背景には指導者の高齢化と少子化があり、熊沢さんは「最後に引き継いだ私たちの世代で復活させたい」と意気込みを語った。【川瀬慎一朗】

受賞した滝波愛翔さん、橋本隆良さん、熊沢咲良さん、横井純さん、三津原やまとさん（前列左端から反時計回りに）＝稲沢市祖父江町の杏和高校で